



こんにちは
日本共産党

市会議員

西野さち子です

くらしの目線で市政を変える

「天災か人災かどっちや!!」「ポンプ停止の責任をとれ!!」市説明会で住民の怒りが爆発

京都市は責任を認め、いますぐ生活補償を!!



問題となっている畑川と小栗栖ポンプ場。稼働が停止したため浸水被害が甚大なものになり、「人災」の可能性が高い。



10月6日(日)の午後5時から、宮山小学校で浸水被害についての説明会が行われ西野さち子市議も参加しました。会場の体育館はいつぱいの参加者で、開始時間になっても受け付けが終わらない状況でした。

京都市の説明が始まりましたが、すぐに会場のあちこちから「浸水の説明はいらん。人災か天災かどっちですか」「ポンプが止まったのは京都市の責任です。認めて下さい」「車がダメになり仕事ができない。補償してほしい」等の声が上ががり、説明なしで質疑応答に入りました。あちこちから手が上が

り、午後8時過ぎまで続きました。ポンプの事故は2度目だという事が分かりました。次に起こればもうここには住めないという発言もありました。京都市の管理責任を市長も認めているのですから、第三者委員会の結論待ちではなく、生活補償はすぐにも進めるべきです。

京都市の主な答弁は「京都市の管理責任を認める」「第三者委員会は公開で行う」「車は罹災証明に代わるものを出す」「相談窓口を一本化してたらいまわしをやる」

みなさんの怒りと願いをぶつけました

9月議

西野市議が

小栗栖浸水被害で質問

2012年度の決算を審議する議会が9月24日から10月28日の会期で始まり、10月28日の会期で始まりました。浸水被害対策として、30日に急ぎよ追加の補正予算が提案され、その後局別質疑が始まっています。

西野市議は危機管理室に対して、小栗栖の浸水被害について質問しました。「緊急速報メールが計15回も発信されているのに、小栗栖については1度も発信がなかった」「ポンプが動き出して急に水が引いたことから、ポンプが動いていれば防げた被害ではないか」「京都市は

管理責任を認めたのだから、水害の補償は京都市の責任で早急にすべき」「社会福祉協議会の貸付制度をお知らせするという市長答弁は許せない」など住民のみなさんの怒りと願いをぶつけました。

浸水被害の青空相談会を開催 深刻な実態があらわに

10月5日(土)の朝、浸水被害の現地にテントを張って、青空相談会が開かれました。午前10時〜12時の2時間だけで馬場府議、西野市議など3人で相談を受けました。

相談者は途切れることなく来られました。最初は「共産党は何をしてくれるの」と半信半疑で冷やかし半分で行かれた方もありましたが、「来てよかった。聞いてもらえただけで気持ちが落ち着いた」「町内を代表して相談にきました」という人も。車の被害が最も多く、「車の罹災証明を出してほしい。商品の被害の補償はありますか」という相談もあり、相談もあり、京都市と京都市の支援策を説明しました。今後ぜひご相談ください。

